

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月 16日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏名	平原 隆史
研究課題	データサイエンスを利用した大学等非営利組織経営の評価				
研究キーワード	高等教育、公共経営、データサイエンス	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	10. 人や国の不平等をなくそう	12. つくる責任 つかう責任	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2020年度より経済研究所プロジェクトも進行をはじめたが、コロナ禍によって文献調査だけが進展してきたが、その中で非営利組織の経営とその評価において、ファンドレイジングなど定量的な評価が可能なモデルの研究があることが分かってきた。そこから大学の寄付やファンドレイジングのデータを収集し、アメリカにおける寄付行動への一般モデルの先行研究、さらに補助金と授業料収入の2軸による分類と、寄付行動にはそれなりの相関を示すことを突き止めた。ここに寄付行動の社会制度的な経路依存性が存在することは明らかとなった。この成果は下記、計画行政学会の年次大会発表という形で公表している。</p> <p>さらにこの問題の各種発表での討論者・聴衆からの議論、提案や、さらなる文献調査からアメリカでの高等研究機関に対する寄付行動の定量的な構造分析がなされていることがわかったため、これに先程の経路依存性を踏まえて、日本の国立大学データをもとに、類似の定量モデルによる分析を行い、日米間の共通点と差異が明確になった。これを経済研究所の場で発表した。さらに私立大学のデータなどを加味して、より一般的なモデル比較にして、完全な形での完成を2023年度中に口頭・論文での発表を行うことにより、高等研究機関への寄付行動への一般モデルの完成を目指したい。</p> <p>長期的には、こうした非営利組織の資金調達構造を明確にするモデルの構築につなげたい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】 特になし。ただし2023年度に投稿予定</p> <p>【著書・論文（査読なし）】 特になし。ただし2023年度に投稿予定</p> <p>【学会発表等】 「大学のファンドレイジングへの一考察 国際比較と寄付の観点から」 計画行政学会 2022年大会 地域と教育（2022年9月10日）</p>					

3. 主な経費

基本的に、今年度は研究の方向性が固まったあとであり、その多くを文献史料の購入に費やし、併せて定量評価を行うための、データの整理やデータクリーニングを行うためのソフトウェアの購入の2点にほとんどの経費を使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし。

(本文は2ページ以内にまとめること)